



あきた北農業協同組合 代表理事組合長

## 仲澤 修

皆様には、日頃よりＪＡ事業・ＪＡ運動に対しまして、多大なご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

平成 28 年度は、第七期 3 か年計画「ＪＡの総合力発揮」 ～地域農業の振興と地域活性化への貢献～ の初年度として営農部署・支店・管理部署連携による経済事業プロジェクトを立ち上げ、農家・組合員の所得向上と農業生産の拡大への取り組みと、組合員や地域住民との絆づくり（地域貢献）のため、「食農教育活動」や「くらしの活動」・「支店を拠点とした協同活動」を実践しました。

また、平成 28 年産米については平成 27 年産米同様、主食用米の需給環境の安定と水田フル活用を図るため、生産数量目標の遵守と「枝豆」を中心とする戦略作物の作付推進を行った結果、生産者皆様のご理解とご協力により、主食用米の価格も前年産に続いて回復基調となりました。

枝豆については園芸メガ団地の誕生もあり、秋田県の 2 年連続日本一に貢献することが出来ました。

しかし、平成 28 年度決算は、日銀のマイナス金利政策や正組合員の減少等の影響により、農機事業を除く各事業は事業計画未達となりましたが、管理費の削減等に努めた結果、当期剰余金は前年より 37,468 千円減の 66,101 千円となりました。大変厳しい一年でありましたが、組合員並びに地域の皆様のＪＡに対する深いご理解とご協力、そして、行政及び関係機関のご指導とご支援に深く感謝を申し上げます。

平成 30 年産以降の米政策について需要に応じた生産が不可欠ですので農業再生協議会を中心に関係機関と一体となった取り組みを継続すると共に、生産者の立場に立った政策確立を政府に求めて行く運動を行います。

ＪＡの再編協議については 3 ＪＡ間で検討部会による課題整理をし、平成 29 年度中に方向性を示すための準備を進めております。

最後に農業・農村を取り巻く環境の厳しさは続くと思いますが、去る 3 月の臨時総代会でご承認頂きました平成 29 年度事業計画実現に向けて一層努力する所存ですので子会社の(株)ＪＡあきた北ライフサービスと併せて、皆様の今まで以上のご理解とご協力をお願い申し上げます。